



十和田市立中央病院

病院ニュース

さわらび

令和8年新春号



新年の挨拶



新たな地域医療構想への対応

十和田市立中央病院
病院事業管理者

たんの ひろあき
丹野 弘晃

皆さん、明けましておめでとうございます。不肖私、数えて7回目の年男を迎えることができました。今年は丙午ですが、60年前は出生数が激減したようです。現代の若い人は気にしないと思いますが、これ以上の少子化はご勘弁願いたいものです。

さて、これまでの「地域医療構想」は、主に二次医療圏ごとに必要な医療機能や病床数を推計し、医療機関同士の機能分担・連携を進めることで、効率的な医療提供体制を整える仕組みにはなっていました。しかしながら、2025年を目標に病床の機能分化を進めてきたものの、病床数自体は減りましたが数合わせ的な内容に終始していたような気がします。この度は国も本腰を入れてきたのか、今後の人口構造の変化を見据え、2040年頃を見通した「新たな地域医療構想」のガイドラインが策定されつつあります。その特徴は、病床中心から外来・在宅・介護を含む全体にわたる総合的な医療提供体制を描くこと、医療機関としての役割を明確にすること、85歳以上人口の急増や医師偏在対策などの医療ニーズの変化に対応すること、医療人財の確保や精神医療の位置づけ、などとなっています。

さらに着目すべきは、来年度の診療報酬改定と、この「新たな地域医療構想」が連動しているということです。現時点では、本体部分の3.09%引き上げとの情報が入りましたが、正直なところもう少し上げて欲しいとの思いが本音です。贅沢は言えませんが、、、。その内容については、医療機関機能が重要視されているのでどのように評価されるのか、医師偏在対策にどのように関わってくるのか、かかりつけ医機能報告制度を踏まえた外来診療や在宅医療・介護との連携がどのように評価されるのか、等々注目点ではありますが、要するに制度的インセンティブを与えながら、新たな構想の方向に誘導するのでしょう。

我が上十三圏域は、地域医療連携推進法人「上十三まるごとネット」があり、医師会・歯科医師会・薬剤師会との連携も強く、当院附属とわだ診療所を介した在宅診療や介護との連携も密に行われていると思います。これまで皆さんと共に作り上げてきたしっかりとした基盤がありますので、さらにその繋がりを深化させながら、新たな地域医療構想に対応して参りましょう。本年もよろしくお願いいたします。

